

平成28年度ユネスコスクール実践事例報告書

報告期間：2015年4月～2017年3月

太田小学校のESDの取り組み

「持続可能な社会づくりの担い手を育む太田小学校の教育」

厚岸町立太田小学校

校長 中村 研自

1、本校は、厚岸町の山間に位置する全校児童19名の小規模校です。地域の産業は酪農です。釧路太田農協に働く家庭も多く酪農の発展が大きな課題となっています。しかし、他地区の例に漏れず、児童生徒数は激減し、また厚岸町も過疎化が加速し産業の維持・発展が町の大きな課題です。そのような時代に、地域と関わり、地域素材・地域人材を活用した教育を進める事は「変化の激しい時代に、自分達の生まれ育った地域を発展させる力」を育む教育を進める事につながります。教育活動全体を通じて、この意識を持って教師も学び成長する学校を目指しています。

2、活動全体計画

総合的な学習の時間は学校教育目標に従い、環境・地域・食について身近な素材や環境を利用して系統的に学習します。低学年の生活科では「えがおのひみつたんけんたい」や「作ってためして」などで計画的に学習します。

また、理科や社会科では地域の自然や歴史を十分活用した計画を作成して学習します。学校の教育活動全体を通じて「地域の将来を担う人材の育成」を強調しており、そのためには教師が知らなければ教える事ができないとの観点から、教師が学ぶ事も重視しています。

3、活動事例

① 地域と関わり合いながら自己解決能力を育てる総合的な学習の時間

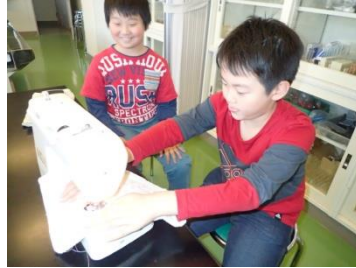
中学年は、浄水場の学習、厚岸町の捕鯨の歴史学習、太田地区の屯田兵の歴史学習などを通じて、課題を持って追究し、進んで人と関わり、自己の生き方のかんがえる力を育てる。高学年は、厚岸の牡蠣について学習し、歴史や仕組み・生産者の思いなどを学習。自然環境全体が牡蠣の生産に大きく関わっている事を学習する。北方領土学習では、元島民の方の話を聞く。課題を追究し、コミュニケーション能力を高め、自己の人間力向上や自己の進路についても意識を持たせる学習を行う。

低学年の生活科では、地域に出かけて「極みるくの学習」「酪農の仕事」「屯田兵の歴史」などを学習した。6年間を通じて地域を知り・地域と関わり・地域住民の思いを感じて愛着を持った中で学習を進めている。



② 委員会活動で取り組む環境作り

本校は委員会活動で、節電・節水・ゴミの分別・校内環境整備を行っています。以前は「環境にやさしいせっけん作り」などを行っていましたが、今年度は「保護者の協力を得た雑巾作り」を行いました。清潔で綺麗な環境で学ぶ事を目指し、自分達でできることはないかを話し合い、保護者に布を提供していただき自分達で雑巾を縫う取り組みを行いました。



③ 学校園を活用した作物の栽培活動

地域の特色を生かし、保護者や地域の方にご協力をいただき、学校園での栽培活動を総合的な学習の時間及び生活科等の時間で行っています。基本的には、各学級単位で栽培の計画を立て、9月の収穫時期まで栽培を続け、最後に調理等の活動でまとめています。今年度は、広い学校園やビニールハウスの耕作・整備に、保護者ばかりでなく地域老人クラブの方々のご協力もいただきました。一連の活動を通して、作物を作ることの大変さと喜びを感じ、食の大切さについて学びます。



④ 割り班を活用した美化活動

異学年児童の交流を目的とした縦割り班活動を本校では実施しています。今年度も3つの縦割り班で活動していますが、活動の一環として、地域の清掃活動や学校の花壇作りを行っています。花壇作りでは、地域の方にサルビアやマリーゴールドなど気候にあった花の苗を育てていただいています。その花を、班ごとにレイアウトを考えて植え、協力して世話をしています。クリーン作戦では、縦割り班で地域を分かれてゴミ拾いを行いました。地域のゴミを拾いながら、普段あまり見ることのない地域の様子を見たり、異年齢の集団でコミュニケーションを取る練習になりました。

小さな学校の小規模集団には様々な異年齢の活動が必要と感じます。

4. 成果と課題

本校は教育活動の中に、非常に多くの地域と関わる活動が取り入れられています。今後も更に発展させるためには、教師の教育を考える目線を変える必要がある。ESDの考えを学習し、教育課程を常に改善していく目を持つことだと思います。